

平成29年度

府中市オリンピック・パラリンピック教育の取組（抜粋）

東京都教育委員会は、東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を、子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を都内全ての公立学校で展開することとしています。

このことを踏まえ、府中市教育委員会では、全市立学校でのオリンピック・パラリンピック教育の充実のための取組を推進しています。本リーフレットでは、小学校5校、中学校2校の具体的な取組について紹介いたします。

1 基本的な視点

＜全ての子供が大会に関わる＞

全ての子供が、オリンピック・パラリンピックに何らかの形で関わり、それらを通して、オリンピック・パラリンピックの価値や意義を学ぶ機会を創出します。

＜体験や活動を通じて学ぶことを重視する＞

子供たちがオリンピック・パラリンピックについての知識を学ぶだけでなく、実際に体験や活動することを通じて学びを深めていくことを重視しています。

＜計画的・継続的に教育を展開する＞

東京2020大会と、更にその先を見据え、計画的・継続的に教育を展開しています。

2 取組の概要

オリンピック・パラリンピックを全ての教育活動の様々な教育実践に関連付け、学校全体で組織的・計画的に展開しています。

基本的な枠組み 4×4の取組

「オリンピック・パラリンピックの精神」「スポーツ」「文化」「環境」の4つのテーマと、「学ぶ」「観る」「する」「支える」の4つのアクションを組み合わせた取組（「4×4の取組」）を推進しています。

府中第二小学校の取組（オリンピックとの交流）



府中第二小学校では、オリンピック・パラリンピック教育の一環として今年度は北京オリンピック陸上競技の400mリレーで銅メダルを獲得した塚原直貴さんをお迎えしました。1～4年生は体育館で講話、5、6年生は校庭で、走り方やリレーのバトンパスについての実技研修を行いました。特に6年生は、連合陸上記録会の直前であり、大変有効な時間となりました。

今年度はさらに、3学期に1、2年生がカバディの体験、3、4年生が車いすバスケットの体験をオリンピックパラリンピック教育の実技体験として行います。これらの経験、体験を通して、これから行われる東京オリンピック・パラリンピックに興味関心をもち、スポーツへの主体的な取組につなげていってほしいと願っています。



小柳小学校の取組（世界のあいさつ／世界ともだちプロジェクト）



《世界のあいさつ》

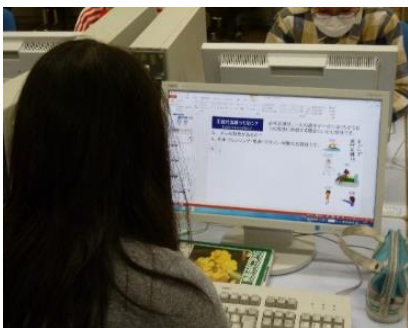
毎週月曜日の全校朝会の時に、集会委員会の児童が全校児童の前に出て、様々な国のあいさつを発表しています。今までに、イタリア語・スペイン語・タイ語・中国語・韓国語・ロシア語・フランス語・ドイツ語などの国のあいさつを紹介しました。学校内でいろいろな言語のあいさつが飛び交っています。

《世界ともだちプロジェクト》

各学年調べる国を決め、模造紙にまとめ、廊下の掲示板に貼っています。各クラスが作成した物を見て回ることで、様々な国の場所や人口、面積、文化、観光などや国の特徴を知り、各国についての理解を深めることができました。オリンピック・パラリンピックについても調べています。



矢崎小学校の取組（東京オリンピック・パラリンピックを調べよう）



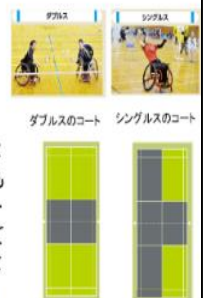
矢崎小学校では、6年「総合的な学習の時間」で、オリンピック・パラリンピック競技種目について調べ学習を行いました。自分で興味をもった種目、初めて知った種目など様々で子供たちも楽しく調べ学ぶことができました。調べる活動には、主にオリパラノートを活用しました。学校だけでなく、家庭学習等で調べたことを書きとめ、①競技の歴史、②ルール、③日本人選手、④世界の選手や世界記録などを調べ、それぞれ調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめました。

作成したスライドは、2020年までパソコン室や空き教室に自由に閲覧できる場所を開設して残していくこととしました。特にパラリンピックの種目はルールに様々な工夫があり、それぞれの種目毎にまとめていくことで、パラリンピックの種目にも興味・関心をもつことができるのではと期待しています。

低学年の子供たちにも興味もてるよう、3択クイズを共通に設定し、何度もスライドを通じて種目のことを学べるよう、工夫しました。

②バドミントンの紹介（ルール）

オリンピックのバドミントンと同じで、1ゲーム21点マッチ方式で3ゲームおこない、2ゲーム先取で勝利となる。一方、車椅子を使用するシングルスはコートを半面に行ったり、シャトルを打つ瞬間は競技者の胴体の一部が車椅子のシートに接していなければならなかったりなど、特別なルールもある。障害の程度に応じて3つのカテゴリーに分かれて、さらに、障害の度合いによって6つのクラスに分けて、シングルス(男子・女子)ダブルス(男子・女子)混合ダブルスを行う。



府中第四小学校の取組（オリ・パラクイズ／オリンピックルーム設置）

《オリ・パラクイズ》



レベル1～5までの難易度別にオリ・パラクイズを作成しました。B5サイズの色画用紙の表面に仕組み問題を示し、中を開くと答えが載っています。難易度別に色を変えているので、視覚的に難易度が分かり、挑戦しやすくなっています。クイズの中身は下記のサイトを参考にしました。現在は、職員室前廊下に掲示中ですが、今後はオリンピックルームに移設予定です。

<http://sn1.e-kokoro.ne.jp/english/olympic/index.html>

《日本人メダリスト種目別一覧》



様々なオリンピック実施後に、日本人の活躍を種目別に記録や写真付きでまとめました。

これらを1ヶ月間は、職員室前の廊下に掲示し、児童に日本人選手の活躍を紹介しました。その後は、空き教室をオリンピックルームとして開設し、その部屋に掲示している。今後は、平昌オリンピックの結果を作成して掲示する予定です。

※写真は、リオデジャネイロオリンピックの日本人メダリスト種目別一覧表です。

府中第七小学校の取組（オリンピック・パラリンピック教育全般）

《4年生 パラリンピック調査隊》



七小では、3年生は「オリンピック」・4年生は「パラリンピック」を調べる学習、5年生は「オリンピック・パラリンピック学習読本」から学ぶ学習、6年生は「友だちプロジェクト」の国を中心にした留学生との国際交流をしています。

総合的な学習の時間を使って調べ、まとめ、伝え合ったり、交流したりしています。

《テコンドー体験教室》



府中市から全国に広がっていった『テコンドー』『車いすバスケットボール』『ブラインドサッカー』の体験教室や、体育大学生による『シンクロナイズドスイミング』の演技見学など「本物」に触れることで、児童は目を輝かし、興味を広げています。

《車いすバスケットボール体験教室》



《6年 国際交流》



府中第三中学校の取組

(パラリンピアンとの交流／世界ともだちプロジェクト)



車椅子の卓球選手、岡 紀彦さんをお招きし、パラリンピックについて理解を深め、車椅子卓球の競技について学びました。また、多くの生徒が岡選手と卓球を通して交流を深めることができ、パラリンピックへの興味・関心を高める機会となりました。



世界ともだちプロジェクトの国について、世界地図にその国の位置を示したものを各クラスに掲示し、交流ホールに「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置したり、国旗を掲揚したりして、各国への関心を高めています。

府中第九中学校の取組 (アルティメット体験／パラリンピアンとの交流)



《アルティメット》

日本フライングディスク協会の副会長である本田雅一氏をお呼びし、アルティメットの授業を行いました。

日本は現在世界ランキング2位であり、今後オリンピック種目になる可能性があります。今から保健体育の授業として盛り上げていくことで、将来のオリンピックの育成を図るねらいがあります。

運動が不得意な生徒も活躍する機会があり、また、随所にフェアプレイを意識する仕組みがあるため、教育効果が高い種目だと感じました。

《ブラインドサッカー》

ブラインドサッカー前日本代表監督の魚住稿氏と、日本代表キャプテンの川村怜選手をお招きし、障害者理解を視点とした授業を行いました。

生徒が実際に目隠しをして体験することで視覚障害者の気持ちを知り、共に生きていくために自分は何ができるかを考えるきっかけとなりました。

また、パラリンピアンと触れ合うことで、障害者スポーツの奥深さを感じることができました。

